

リサイクル

わたしたちにできることって
いったいなんだろう……？



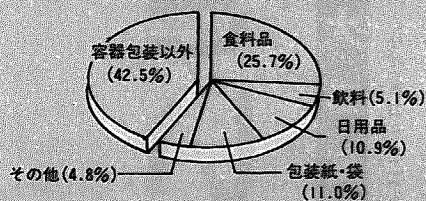
4月1日からスタートする容器包装リサイクル法。これは市町村、事業者、消費者がそれぞれに責任を持ち、リサイクルの役割分担をしていくことを決めたものです。市町村は容器包装の分別回収を行うことで、また事業者は分別収集された容器包装廃棄物を再商品化することでリサイクルに参加します。

では、わたしたち消費者がリサイクルに参加するには、どのような方法があるのでしょうか……。

■容器包装廃棄物が問題に

一般廃棄物のなかで高い割合を占めているのが容器包装廃棄物です。この容器包装廃棄物とは、商品を買うことによりついてくるビンや缶、紙やプラスチック製の容器や包装のことです。これら容器包装廃棄物が、ゴミの約6割（容積比）をも占めているのです。

一般廃棄物全体に占める 容器包装廃棄物の割合



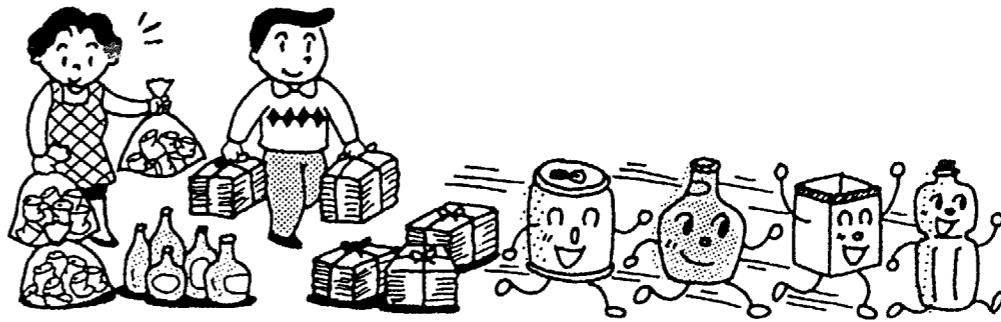
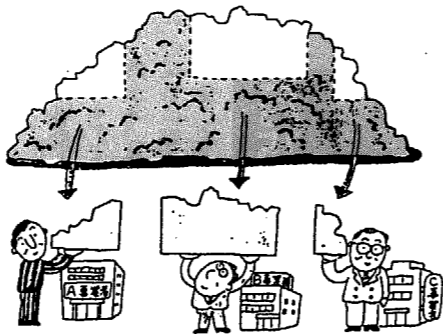
現在、村では生ゴミを堆肥にする「コンポスト」購入費の助成を行ったり、清掃工場で鉄やアルミについてリサイクルを行ったりしています。今後は、今ある清掃工場が古くなり痛んできているため、施設の改築が必要になってきます。その際は、資源ゴミの回収を考えた施設の建設が予想されますので、ゴミの出し方など皆さんのご協力をお願いします。

●村では……

- ### ●消費者
- 1 村が行う分別収集に協力する
リサイクル社会をつくるためのいわばスタートラインです。
 - 2 容器包装廃棄物の排出を抑える
繰り返し使える「リターナブルビン」などを使用する。また、買物時には買物袋を持参したり、過剰包装されていないものを選んだりする（バラ売りなど）。
 - 3 生活のなかに「リサイクル」を取り入れる
再生紙や再生プラスチック製品などのリサイクル品を積極的に使用することで、その需要が高まり、しっかりとしたりリサイクルの輪を築くことができます。

- ### ●事業者
- 再商品化（リサイクル）義務を負う事業者とは、
- 1 その販売する商品に特定容器を用いる事業者
 - 2 特定容器の製造などの事業を行う者
 - 3 その販売する商品に特定包装を用いる事業者
- 再商品化すべき量は容器包装の量・業種によって異なります
- その事業者が再商品化の義務を負う容器包装廃棄物の量は、その事業者がどんな商品を製造・販売し、どれくらいの売上（販売額）があり、またその商品によってどれくらいの廃棄物の排出が見込まれるかによって決定されます。

※法律により「事業者は、その事業活動に伴って生じた廃棄物を自らの責任において適正に処理しなければならぬ」と定められています。商売をしている皆さん、商売によって生じたゴミは、自分で処理場へ運ぶようお願いいたします。



みんなであつなげよう リサイクルの輪

4月1日から「容器包装リサイクル法」がスタート！

「容器包装リサイクル法（容器包装に係る分別収集及び再商品化の促進等に関する法律）」が四月一日からスタートします。これは、一般廃棄物の約六割を占めている容器や包装材料（容器包装）を、市町村、事業者、そして消費者の三者が、それぞれ責任を分担し合い再

利用しているというシステムづくりを目指すものです。年々増え続けるゴミ。このゴミを減らすには、消費者である皆さんの力が必要です。不要な容器包装を避ける、リサイクルされた商品を選ぶ……。今日からさっそくつなげてみませんか、リサイクルの輪！



Q & A ゴミ問題って そんなに 深刻なの？

Q 日本ではいま、どのくらいゴミが増えているの？
A 家庭やオフィスから出るゴミのことを「一般廃棄物」と呼んでいます。この一般廃棄物が、年間どのくらい出ているのかをご紹介します。
平成五年で約五千三十万トン。これは東京ドームの約百三十五杯分に相当します。この数字もさることながら、六年前の昭和六十二

年と比べると、ドーム約十杯分も増えているというから驚きです。ゴミが増えた原因はいろいろ考えられますが、わたしたちのライフスタイルが変化していることを抜きには語れません。使い捨て商品の普及、耐久消費財の買い替えサイクルが短くなったこと、またオフィスのOA化に伴う紙ゴミの増加なども原因の一つです。

Q ゴミがいくら増えようが処分すればいいじゃない？
A その「処分」に問題があるのです。処分の仕方によっては、「焼却」と「埋め立て」があるのはご存じでしょう。しかし、焼却場の処理能力はど

こもお手上げ状態で、本来、燃やすべきゴミも埋め立てに回している始末。一方の埋め立ても、埋め立て地のタイムリミットが全国平均で八・一年ととても厳しい状況です。また、焼却場も埋め立て地も、これ以上増やすことは難しいこともつけ加えておきます。

Q どうすればゴミ問題は解決するの？
A ゴみを減らすしかありません。具体的には、ゴミそのものを減らす方法と、ゴミの中から再生できるものをリサイクルに回す方法があります。前者は、包装が省かれているものや詰め替え可能なものなど、極

力ゴミの出ない商品を選択していくことが肝心。また、ゴミとして捨ててしまう前に、ほかの何かに利用できないかを考え、実行することも大切です。いわば「家庭内リサイクル」ですね。

後者は、リサイクルに積極的に参加すること。一つの例が、分別収集への協力で、みなさんが分けて出した缶などは、鉄やアルミとしてリサイクルに回されているのです。平成七年に成立し、今年の四月からスタートする「容器包装リサイクル法」でも、市町村・事業者の役割とともに、消費者の役割として、分別収集への協力を呼びかけています。そう、ゴミの減量化の主役はあなたなのです。